項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営 1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた地域の中で自分らしく生きがいを持って生活してもらいたいという理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	何時でも確認出来るように各スタッフがカードサイズの物を持ち歩いている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居者家族へは、契約時に説明している。玄関入口にも運営理念、ケア理念を額に入れて、いつでも来訪者に見てもらえるようにしている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	天気が良く、入居者さんと散歩に出た際は出来るだけ近所の方達と挨拶するようにしている。時々、お元気ですね、今日は散歩日和でいいですね、等と声をかけてもらっている。		町内会の方々との畑（花壇作り）を今月予定している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	今年から町内会で行っている廃品回収に参加。毎月第一土曜日に行っている。又、町内会でも行事やお祭り等にも入居者さんと一緒に参加させてもらっています。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内へ「あいあい便り」という物を回覧板で配布し、介護の事で相談等‥と最後に記載している。時々町内より、入居の相談や、介護保険の相談等に訪れてくれている。		運営推進会議にて町内会の防災訓練の際に車椅子を持って参加する予定。地域の皆さんに車椅子の使い方を簡単に説明する予定

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果が届いてから、スタッフで一度見直し、改善点を確認するようにしている。具体的に改善する点があった場合は、各スタッフに申し送りして改善に努めている。		
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	約3ヶ月に1回の運営推進会議において各月ごとに報告書（2ヶ月分）を作成して、町内の代表。包括支援センター、市役所職員に提示し、その後にサービスの改善点などについて話し合いを行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在も市町村職員による行き来はない。こちらから法の改正についての質問、ケアプラン作成の際に使用する前回の認定調査表の交付等に出向いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者、スタッフで市で主催した権利擁護、成年後見制度の講習会に参加。まだ利用する確率のある方はいないが、出来るだけ早急に対応できるような体制を作れるように努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待防止廃止委員会を半年に一回開催し、虐待事例、各ユニットで虐待が行われていないか等の確認を行っている。		
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	契約内容説明の際は、不安に思っている事、疑問に思っている事を最優先に訪ね、説明を行うようにしている。又契約後も分からないことがあれば、と家族へ話をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんからの苦情、不満、意見については「管理日誌」に記載。必要に応じて観覧可能になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月「月次報告書」を作成して家族へ報告している。又、急な体調変化や健康状態の変化については、その都度家族へ電話をするようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの訴えがあった時は、施設長へ連絡し、スタッフへ申し送り。その後運営推進会議等で報告するようにしている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回平均でユニット会議を行い、職員の意見、提案を聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じてパート職員を配置。病院受診、行事など事前に予定できる場合は、前もって職員の増員を行い業務に支障がないようにしている。夜間の緊急時呼び出し体制を作っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	定年退職や異動等でスタッフが変わる場合、利用者への影響を考えできるだけ早く新しい職員を採用して引継ぎを行うようにしている。職員の異動に関しては、ユニットの職員同志の関係、入居者との関係を踏まえて、異動が適切と考えた場合に行っている。（職員の希望を受け入れる場合もある。）		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では、新規職員研修やリーダー研修など、少人数で計画して研修を行っている。法人外の研修も参加するよう声をかけている。必要な研修は運営者、管理者で相談して、出張として職員に研修に参加してもらうようにしている。昨年より法人内で事例発表会を行うことにより、各ユニットで行ってきた介護をふりかえり、また新たな気持ちで介護に取り組めるようにと考えている。	○	今後は法人外の研修にもう少し積極的に参加するよう勧めて行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は、胆振地区の広域連絡会に参加し同業者との交流を図り、講演会、勉強会などにも参加してそれを職員に伝えている。登別市の事例検討会にも参加するようにしている。	○	登別地区での同業者との交流を増やして行きたいと考えている。もう少し外部の研修にスタッフも積極的に参加できるようにしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ミーティングや法人内研修などでストレスことを取り上げ、自分だけではなく皆も同じように感じているなど共有しあうようにしたり、人事考課を行いながら運営者と面談の機会を持ち、悩みやストレスに関して話せる場を持つ。また、職員の様子を見ながら必要に応じ、管理者との面談、運営者との面談をその都度行っている。	○	もう少し職員が相談しやすい状況を考えて行きたいと思っている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	業務上の役割や事例発表等を通して、段階を追って職員に役割を与え、達成感がもてるようにしている。	○	実績を評価して具体的にほめたり、人事考課の結果を賞与等に反映して、もう少し職員にわかるように評価してあげたいと考えている。
II．安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居するまでの間、家族と一緒に面談から始まり、本人の嗜好、趣味等を先に調べ、不安に思っている事、求めている事をご家族と一緒に話してもらい、その人一人一人の気持ちを受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	上記で記載した通りに面談時にお話を聞いている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際に、包括支援センター、又は他のサービスがないか、担当のケアマネに確認するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族等と1度見学してもらい、お茶等を飲みながら場の雰囲気に馴染んでもらうようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者への対応について、常に「自立支援」を念頭においた介護を心がけている。学ぶ事も沢山あり、時には入居者さんに怒られてしまったり、一緒に料理をしたりテレビを見たりしながら笑ったりして過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会に訪れた際は、出来る限りスタッフも一緒に入って会話する時間を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族によっては、今までの家庭環境等様々な方もいらっしゃるので、各スタッフで把握して理解に努め、面会時でも楽しく過ごしてもらえるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	長期間面会に訪れていない方に関して、入居者さんと一緒に電話をかけてみたりしている。仕事等でなかなか連絡ができない、という方もいるので、途切れないように注意している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	行事等、行う際必ず入居者さん全員に声を掛けて、お祭りでは入居者さんと町内の方々、又は入居者さん同士で楽しそうにしていたり、他の方も日中リビングで過ごしてもらったりして孤立せずに支えあって過ごしてもらうようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院で退去したご家族について、遠方の為になかなか会いに行けないという方に関して、状況等を知らせたりしている。		
III．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事、入浴等出来るだけ一人ひとりから希望を聞いて対応するようにしています。又外出、その他嗜好品等も一緒に買いに出かけたりと出来る限りの把握に努めています。困難な方に関してはセンター方式活用し、本人本位に、どのように考えているか考えながら対応しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	出来るだけ、今までと同じ馴染みの生活が営めるように、自宅で使っていた物を持ってきてもらうようにしています。、入居時に担当のケアマネ、御家族からも十分に情報交換を行い、本人の今までのライフスタイルを崩さないように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	申し送りの際にスタッフ間で話し合い、一人ひとりの生活ニーズにあった把握を行うようにしています。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	御家族、本人から希望、要望の確認を行い、その後サービス担当者会議にて意見反映した計画作成に努めています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入院等してからグループホームに戻ってこられた方等状況変化があった場合に、担当者会議行い新たに作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やけあの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	介護計画サービスを実施した際に計画に記載した番号を記録に書いてもらいモニタリングや新たな計画作成に活用している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出等行う際、現在の身体状況説明、外泊する間の薬の準備等支援している。又経営母体が医療法人という事もあり、より詳しい説明や要望希望の場合は、担当の看護師、又は医師から直接説明を受ける事もできる。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察。消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	現在まで近所の小学校と年に何度か交流している。他避難訓練にて年2回行い助言を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネーシャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、同じ法人内のリハビリを受けている方はいるが、他の事業所のサービスを受けている方はいない。しかし、年に数回行っている、包括、グループホーム管理者の集まり等で色々と情報交換行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在も要支援の入居者さんは暮らしてはいないが、地域包括支援センターとの協働はないが、常に情報交換行なっているので必要性が出た場合、直ぐに対応できるようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員、訪問看護師による相談、又月に数回「健康相談」にて医師が来訪し健康管理、医療活用支援行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医ではないが上田病院院長に診てもらい、認知症に関しての相談や治療を受けられる状態になっている。専門的な認知症の治療が必要になった場合は紹介状を書いてもらって脳外科等受診できるようになっている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員、訪問看護師共に確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向けて関係者との連絡、調整行い、入院時にも介護添書を提出している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期の覚書、入居時に終末期について説明、同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看取りに関する指針にて看取り介護の実施方法等記載、変化に備えて検討もしくは実施できるよう準備している。		
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居時引越しの際はできるかぎり今まで使用していた家具や寝具を持ってきてもらって使用してもらっている。今回も特に大きな混乱は見られていません。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	各スタッフに対して「言葉かけ」に対しては常日頃注意して声かけし、その方、その方に対しての性格の違い等注意するようにしている。記録、個人情報に関しては取り扱いはしているが各ファイルにて棚に厳重に保管している		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	食事、外出、入浴等、本人の表情等を見極めて、又なかなか意思表示が難しい方に関しては、こまかいジェスチャー等にも気を配るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	上記にて対応。中にはなかなか決められない人もいる為、色々と提案してみたりするが、決して無理強いはしないように注意しながら対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	特に入居者さんが望む美容室、理容室は聞かれないが、2ヶ月に1回、出張美容師さんが来訪して、皆さん本当に喜んでいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	野菜の皮むき、皿拭き等に参加してもらっている。又、麻痺等で参加の難しい方は一緒に台所へ入ってもらってスタッフの作る料理を見学してもらい、好み等聞きながらスタッフも作るように努めている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒のみ飲む方が1名おり、本人の希望に合わせて提供するようにしている（1日1回程度）おやつは本人の食べたい物等を事前に聞いたりして提供、又行事季節に合わせて出すように気を付けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターン表、又は時間誘導等で対応するようにしている。その時、その時にもよるが、時には毎回失禁していた方が、すべてトイレで排泄がきちんと出来た事もあった。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本入浴時間は定めていないが、現在も特に時間指定する入居者さんはおらず、昼間に入っている。曜日は気にせず、入りたい人を優先し、中にはあまり好まない方、意思表示が難しい方もいるので、入浴表も別に作成して、きちんと入っている事も確認しながら対応するようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	毎週1回はシーツ交換を行い、又、就寝時間特に設定はせず、自由な時間に寝てもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	男性は力仕事（冬は雪かき、夏は畑仕事や掃除など）、女性は洗濯たたみや一部料理の手伝いに参加してもらっている。皆さん昔から行ってきた事なので、不自由なく行い、気晴らしになっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	各入居者さんで預かり金として事務所へ保管。いつでも使用できるようにしている。又入居者さんもいくらか所持しており、嗜好品で使用している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望により、外へ出かけている。冬場でも、きちんと着込んで、気晴らしを行うようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	水族館、壮瞥へぶどう狩り、室蘭、登別市内観光名所へ出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は現在書く方はいないが電話をかけたいと言う場合は1階公衆電話にて自らお話している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者来訪の際はゆっくり過ごせるようにスペースを確保。お茶を提供しゆっくり会話してもらっている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置。オープンしてから現在まで拘束は行っていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は常にリビングにスタッフが残るようにして入居者さんが誤って外等へ1人で出かけてもすぐに対応できるようにしている。しかし現在も外へ直ぐに出てしまう方がおり、入り口のみ施錠しているが、その方が外泊時は施錠していない。	○	今後は外泊している時以外でも、落ち着いている時間帯を見つけてドアをオープンにしてみる。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間は1時間毎に夜間は2時間毎に所在確認、又は見廻りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各スタッフが保管場所を統一して覚え、夜寝る前等に確認するようにしている。危険な物に関して（はさみ等）はきちんとタオル等で保護しているか確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット事故報告書作成し作成時にスタッフ間で話し合い改善方法を話し合っている。		
70	○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応等マニュアルにそって定期的に確認している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行い、できるだけ全てのスタッフに参加してもらっている。 夜間帯を想定した訓練では町内会の方達に参加してもらい玄関からの誘導に参加してもらっている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	疾患や転倒等、入居者さんのレベル低下等のリスクに関してご家族に説明を直接又は緊急性のある物は電話連絡にて対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝の血圧測定時、体調不良訴えや常日頃で異変が見られたら早急に看護師へ連絡、スタッフ間も情報共有して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者さんのファイルに処方箋説明書を入れて各自確認し、新しく処方された薬に関しては申し送りの際記録で確認するようにしている。又症状の変化が見られたら看護師に報告。助言等もらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	現在は食事に付ける果物の替わりに、フルーツ寒天ゼリーやヨーグルトにプルーンを入れて見たりして対応。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食事後に入居者さん全員に声かけして歯磨き促している。車椅子使用者は洗面台まで距離がある為汚れないように前掛け等使用して行なってもらっている。しかし何人かは口腔を嫌がる方もおり、時間を置いて誘導したり、トイレに行った後、洗面台に寄った際に一緒に促すようにしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各スタッフが食事の献立や、記録で食べている物を数日前の分から把握するようにして、1人1人の嗜好に沿った食事、飲み物を提供。体重増加、減少が見られた時は看護師に必ず連絡し、指示をもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウィルス等）	スタッフは出勤時必ずうがい、手洗いする。面会者も同様にお願いする。 ノロウイルス等に関しては食器類を毎回煮沸消毒している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	上記記載通りに煮沸消毒行い、食材に関しては買い物の際必ず賞味期限を確認して買うようにしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ピンク色の看板が目印で、玄関周りに食物等の畑を作っている。畑の前や玄関にはベンチを設置して面会に来られた方とお話したりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間に関しては不快な音、光がないように窓、カーテンを調節。又ゆったりしてもらうようにソファーを3台、又たたみ式の横になったり、作業を行うのに適した空間も確保している。季節感が取れるようにその季節のお花を飾ったり、季節ごとの飾り（クリスマスや正月等）を入り口ドアやリビングに飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーや廊下のベンチ等各入居者さんが思い思いに一人で過ごしたり、仲の良い方同士で会話したり、お茶を飲んだりしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に出来るだけ今まで使用していた家具等お持ち下さい。と説明している。		
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中、夜間共に温度調整はまめに行い、夏場は窓を開けて換気や熱交換機で調整を行ったり、冬場は暖房機で調整し、乾燥に注意しながら湿度にも気を配って対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全ての通路に手すりを設置し、廊下も引っかかる物や滑りやすいものがないか環境整備している。又新しく、各自室にも手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	排泄や食事等、声かけしできるだけ自力で行えるように努めている。排泄時失禁等見られた場合は自尊心を傷つけないように注意して対応している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外の畑の前にベンチを置き、日中皆さんで日光浴行なっている。又、畑のトマトを食べて話をしたり、一人ひとりくつろいでもらっている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ③
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない ②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない ③
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）